

平成 30 年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日 時: 2018 年 12 月 4 日(火) 13:00~17:00

場 所: 兵庫県立大学 明石看護キャンパス (演習室 401)

テーマ: 緩和ケアにおける症状マネジメント Up to date

講演 B: 倦怠感、精神神経症状のコントロール、苦痛緩和のための鎮静、
緩和ケアのためのコミュニケーション技術

講 師: 安保 博文先生(国家公務員共済組合連合会六甲病院 緩和ケア内科部長)

受講者: 6 名

アンケート回収:6 名 (回収率 100%)

主 催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人
材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 内布敦子



<概要>

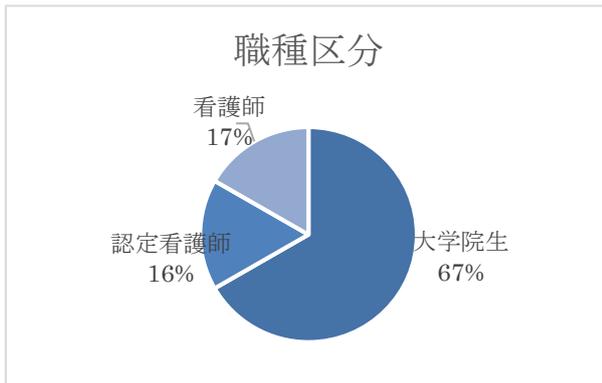
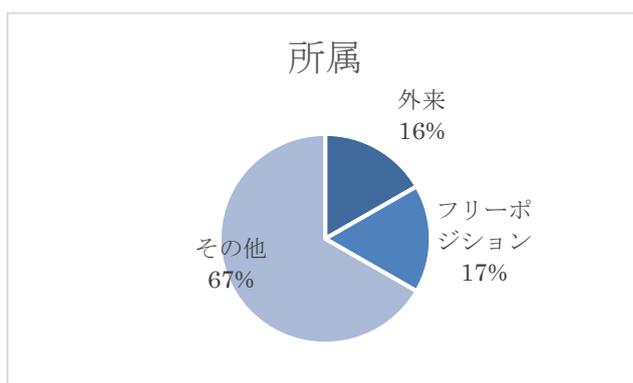
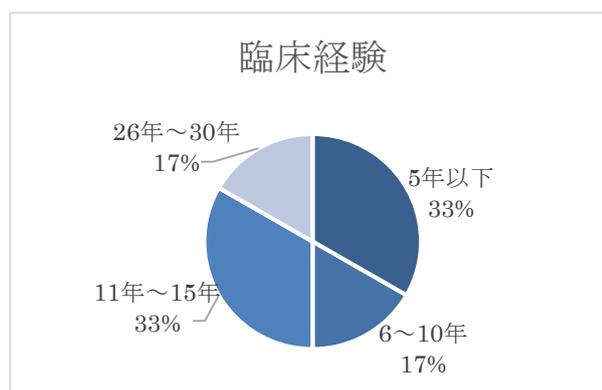
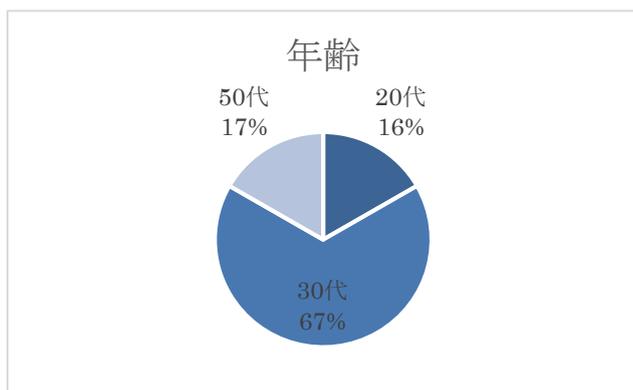
六甲病院 緩和ケア内科部長 安保 博文先生から緩和医療学概論特別講義として、「緩和ケアにおける症状マネジメント Up to date」の講演 B「倦怠感、精神神経症状のコントロール、苦痛緩和のための鎮静、緩和ケアのためのコミュニケーション技術」についてお話を頂きました。中でも鎮痛については実態調査のデータを通して、臨床では様々な状況や事情があることをご説明いただきました。そのあとのグループワークでは、現場において実践的で柔軟な対応をとるにはどうすべきか、またその問題点について討議することができました。具体的な事例たくさんご説明いただいて、緩和ケアにおける基本的な考え方、コミュニケーションの重要性をあらためて深く考えることのできた貴重な講義となりました。



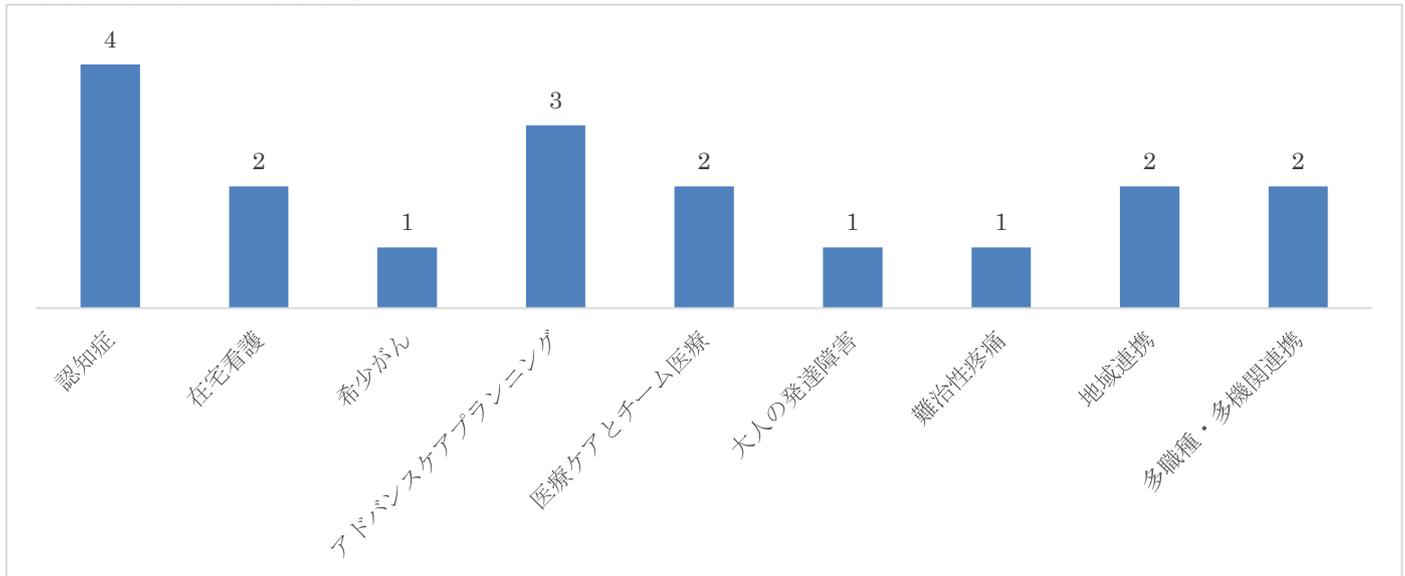
そのあとのグループワークでは、現場において実践的で柔軟な対応をとるにはどうすべきか、またその問題点について討議することができました。具体的な事例たくさんご説明いただいて、緩和ケアにおける基本的な考え方、コミュニケーションの重要性をあらためて深く考えることのできた貴重な講義となりました。

<アンケート結果>

●参加者について



●今後、セミナーに期待するテーマ



●参加者からのコメントより

▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

- ・痛みといった身体症状はしっかりとる、その準備性をしっかり見せるという一番大事な部分をあらためて知ることができました。
- ・せん妄など実際に困った経験のある症状を丁寧に上げてくださり、対応治療についてよくわかりました。
- ・コミュニケーションスキルで成功体験をさせる。不眠時の眠剤の使用方法。
- ・痛みや薬の機序を理解すること。具体的な治療看護の提案は必要だがすぐにどうにかしようとは思わないこと。
- ・精神神経症状のコントロールのところで薬剤の違いについて丁寧に教えてくださり、とてもよくわかりました。複数の影響を考慮してアセスメントできました。資料を参考にさせて頂きながら考えていきたいです。
- ・がん進行期に生じる苦痛・苦悩についてスピリチュアルとしてよりわけて捉えずにという話は、臨床に戻っても大切にしていきたいと思いました。

▼がん患者の緩和ケアにおいて、今、最も強く感じている課題をお書きください。

- ・患者そっちのけで意思決定が進む場合がありますが、やはりその患者がどうしたいか、家族がどうしたいかを考えていくことが大事だと思いました。
- ・一般病棟でターミナル期の患者さんを看ることの難しさ(パスに沿った在院日数の短縮、緩和ケアチームにコンサルとした結果、主治医が患者と距離を置いてしまうなど)。
- ・患者家族が納得して終末期を迎える(アドバンスケアプランニング)事が重要といわれているが、時期や介入の方法が難しい。
- ・症状緩和
- ・コミュニケーション

▼その他、何かご意見・ご感想があればお聞かせください。

- ・臨床の現場では理解できないことが原因検索や病態により話していただいて勉強になりました。自分が知識不足な点や実際にかかわりが少ない点もあり、十分に理解できたとは言えませんが、今後も自己学習しPt対応につなげていきたいと思えます。
院生と学べる機会を与えていただき、ありがとうございました。
- ・具体的な薬の使い方や最近の話題、グループワークなどとても有意義な時間だったと思えます。ありがとうございました。